

研究評価委員会分科会各委員からの評価結果に対する対応について(事後評価)

課題名「日米共同構造実験研究、高知能建築構造システムの開発」

1. 主な所見

・所見 :

「19、得られた成果の発表状況」では数多くの論文が発表されており、評価に値する。

・所見 :

高知能建築構造の概念を打ち出し、それに必要な各種技術のガイドラインを作成したことで、概ね本研究の目標は達成されたものと判断する。

・所見 :

この共同研究は国内外の多くの研究者を取り込んですすめられ、これらの成果は多くの論文として発表されてきた。この分野の世界の研究に活性を大きく吹き込んだ意味で、この共同研究の果たした役割は大きく、高く評価できる。

・所見 :

この5年間の研究が、世界のこの分野の研究と実用化に火をつけたということで、大きな役割を果たしたと考える。

・所見 :

8. 研究開発の具体的計画: プロセッサ技術の内容を明確に定義すること。

・所見 :

12. 他の機関との連携及び役割分担: 連携する外部機関およびその役割分担が明確に示されていない。米国側との共同研究についても言及することが望まれる。防災科学研究技術研究所(大型振動台の利用)との連携も述べるのが望ましい。

・所見 :

16. 評価の指針: ここで求められている内容が不明である。本研究ではっきりと打ち出された高知能建築構造物の概念を明確に定義しておくこと。

・所見 :

20. その他、特記すべき事項: スマート構造に関する国際的研究協力体制において、研究状況がどの段階にあり、どのような研究協力を行なおうとしているかを明らかに表現することが望まれる。

・所見 :

当初の目標である「性能の高度化」「コストの低廉化」を実現させるためにも、今後の実用化技術の展開に期待したい。

・所見 :

この種の技術は、未だ開発段階にあり、実用化のためには、更なる研究開発が必要であると思うので、研究開発を継続的に進めていただきたい。

・所見 :

町や、都市のレベルで地震時、台風時にその現象を知覚し、判断し、反応することを研究し、災害の軽減を図るための研究に取り組んで欲しい。

2. 主な所見に対する回答

・所見 〇 に対する回答：

本課題を評価いただき感謝します。

・所見 〇 に対する回答：

説明書中の表現を改め、具体的に分かるような表現にしました。

・所見 〇 に対する回答：

防災科研を含む連携する外部機関の役割について明確に記述しました。米国との関係は JTCC について記述しました。

・所見 〇 に対する回答：

評価指針の記述の仕方が不適切でした。修正いたしました。

・所見 〇 に対する回答：

ASMASST については第一回の会合がこれから開催される予定です。協力体制などは今後決めていくことを追加しました。

・所見 〇 に対する回答

現在までの検討は「性能の高度化」を主にしてきたが、今後より単純なシステムによる低廉化などについても検討していきたいと考えています。

・所見 〇 に対する回答

15年度からスタートした「スマート技術の実用化」の中で継続していく予定です。

・所見 〇 に対する回答

センサー技術の中で、「センサーネットワーク」について検討してきましたが、この課題では概念構築にとどまりました。センサーネットワークを実現するツールとして RT-Linux の検討を行ったが、今後更なる検討を行っていきたいと考えています。